



しかしこの状況を、早くからネイマール君に目をつけてきたサントスFCが、黙って見ているはずもなかった。ロビーニョの移籍の際、周囲から散々非難を浴びたことで、クラブとしてもヴァギネールには恨みがあったのだ。

サントス側は一刻も早く正式な登録選手としての契約書を交わしたがった。一方、父ネイマールは、新学期が始まるためサントスFCに残るのか、他のクラブに行くのかを少しでも早く決めたいと言っていた。だが、ブラジルでは14歳で初めてアマチュア選手のサッカー協会登録が認められるため、その時点でサントス側に権利は生まれておらず、スペインなどの海外からのオファーを盾にするヴァギネールの存在もあり、話は簡単にまとまらなかったのだ。

すると3月下旬、ついにネイマール・ジュニア、父ネイマール、そして代理人のヴァギネールはスペインに旅立った。海外移籍の可能性を広げるためである。目的地は、スペインのマドリッドだ。

ネイマール君は、まずレアル・マドリッドの本拠地サンチャゴ・ベルナベウを訪れ、レアル

のフェルナンド・メルティンス会長から直々に歓迎の抱擁を受けた。プロチームの練習を見学に行った際には、ブラジル人選手たちに交じりボールを蹴るなどし、至福の時を過ごしたようだ。そしてスペイン滞在中、代理人ヴァギネールのところには欧州超一流の4クラブからオファーが来た。

争奪戦に参加したのは、レアル・マドリッド、バルセロナのスペイン勢に、イングランドのマンチェスター・ユナイテッドとアーセナルだ。それは、普通の14歳にとって「いつかはプレーしたい夢のクラブ」ばかりである。彼らがマドリッド滞在中、レアル・マドリッドとバルセロナは4月1日にクラシコを控えていたが、両者はピッチの外でも戦っていたことになる。「バルセロナはレアルにジェラシーを感じたのか、ついにネイマール君の父にレアルを上回るオファーをしてきた」と、ヴァギネールはラジオのインタビューに答えている。

一方、ブラジル国内ではこの契約問題が物議を醸していた。青少年には「遊びと教育」という大きな権利が保障され、子どもは子どもらしくあるべきだという声や、ネイマール君

の両親に問題があるという意見もあった。弁護士の中には、14歳の少年が海外のクラブに労働目的で入団することは少年法に違反するため、総務省が取り調べを行うべきだと言う者もいた。確かにFIFAの規定では、少年が海外でプレーする場合は、その親も同じ国で仕事をする場合に限るとしている。そのため、クラブ側は親に仕事を与え、子どもと一緒に連れてくるという方法をとる。もちろんヴァギネールが受けた全てのオファーには父の仕事も含まれている。

家族は、ネイマール君の才能を最大限に生かせる場所こそが神様の定めと信じていた。行き先はどこでもいい、家族はそれに従うだけだ、と。なかなか神様は行き先を定めてくれなかったが、4月10日、ついにサントスFCとの契約で話がまとまったのだ。

契約期間は2011年まで。ネイマール君はサッカー協会への登録が許可され、晴れてアマチュアの試合に出ることができるようになった。そして、16歳になる2008年に契約の見直しをなされ、ようやくそこでプロとして契約書にサインすることができる。

とはいえ、実際、2011年までサントスに在籍しているかどうかは神のみぞ知る、である。プロになった途端、好条件のオファーとともに海外に移籍することも考えられる。ちなみに違約金は2500万ドルに設定され、これはロビーニョのケースの半額にあたる。

「家族は僕が自分で行きたいところを選んでいって言ってくれた。僕は今、サントスですべて幸せなんだ」

明るく話すネイマール君。本人は、ひとまず自分の進路が固まったことで安心した様子だ。彼がプロとして活躍するまでにはまだ時間の経過を待つしかないが、まずは順調な第一歩を踏んだと言っていいだろう。

サッカービジネスと共存していく 将来のスタープレーヤー候補生たち

さて、ネイマール君の話はひと段落したが、ブラジルにはまだまだ彼のようなダイヤの原石が数多く眠っている。ここで、そんな有望なブラジル人少年を何人か紹介しよう。

まず、パラナ州の街カンポ・モウラン市(州都クリチーバから約470キロ)のアダビ

(ADAP)というクラブの攻撃的MFジャン・カルロス・シェラ君。彼はまだ10歳だが、9歳で既にペレかマラドーナの再来とまで言われるほどの才能の片鱗を見せていた。これまでに移籍話が取り沙汰されたクラブはボルト、ヴァレンシア、チェルシー、ボルドーなど。アダビでプレーしている時に、マンチェスター・ユナイテッドの可能性あり、と大きくメディアに取り上げられたが、最終的にサントスFCに入団し、現在U12に所属している。

さらに、今年の5月には欧州の代理人グループが家族をオランダ旅行に招待した。PSVとアヤックスを紹介し、施設、環境を見学してもらい、クラブ関係者らと会見することでなんとか家族を説得しようという目論見だった。しかし、今のところサントスが気に入っている様子で、あっさり誘いを断ったという。

また、サンパウロ州の地方クラブ、ミラソウのニコソこと、マイコン・ヴィニシウス・ダ・シウヴァ君は、ミラソウがPSVと提携したことで、13歳からオランダとブラジルを行き来しながら養成されることになった少年だ。

そしてもう1人、ブラジルの未来の秘密兵

器を紹介しよう。グレミオの下部組織で異彩を放っている天才プレーヤー、94年8月生まれの11歳(8月31日で12歳)、チエゴ・ドゥラン・デ・アシス・モレイラ君だ。その名前はマラドーナに敬意を表してつけられたという。ボールコントロール、視野の広さはとてもこの年齢の子どもとは思えないと人々は絶賛する。既にスペインのクラブからオファーが届いているのだが、今のところ、チエゴ君の家族は引越すつもりはないという。それでも、彼は才能をさらに開花させるべく、学校の休みに合わせて叔父のいるバルセロナで特別に練習に参加している。「チエゴには自分の将来を自分で決める権利がある」と、父のロベルト・アシス・モレイラは言う。何とんでも、世界一有名な叔父、ロナウジーニョが「自分が同じ年齢の頃以上のサッカーをする!」と太鼓判を押すのだから、将来が楽しみなのも無理はない。

このように、次から次へと有望な選手が現れるタレントの宝庫ブラジルでは、優秀な少年の発掘が続く。今後も、それが止むことはないだろう。